

第3次 淀川区生涯学習推進計画

～ まなびあい ふれあい つながっていく 淀川区 ～

(案)

2018年12月

淀 川 区 役 所

《 目 次 》

はじめに	1
第1部 これまでの取り組み成果と課題	
1. 生涯学習を通じた教育コミュニティづくり	2
2. 必要な人に届く生涯学習	6
3. 市民力を育む生涯学習の推進	9
4. 「ひと」「まち」「まなび」をつなぐ多様なネットワークづくり	11
第2部 これからの取り組み	
1. 生涯学習を通じた教育コミュニティづくり	12
2. 必要な人に届く生涯学習	13
3. 市民力を育む生涯学習の推進	14
4. 「ひと」「まち」「まなび」をつなぐ多様なネットワークづくり	15
おわりに	16
付属資料	17
・各種データ類	
・生涯学習関連施設	
・生涯学習関係経過等	

はじめに

淀川区の第3次生涯学習推進計画は、大阪市の第3次「生涯学習大阪計画」(2017)及び第2次の「淀川区生涯学習推進計画」(2006)に基づく取り組み実績を踏まえつつ、当区の特長などを盛り込んだ淀川区オリジナルの計画となるものです。

本計画では、当区がこれまで重点的に取り組んできた「教育コミュニティ」づくりを引き続き強力に推進していきます。そのため、前計画が策定された2006年以降の「少子高齢化」や「ICT化の進展」などの社会状況の変化や、「生涯学習ルーム事業やはぐくみネット事業、学校体育施設開放事業の区への事業移管」、「分権型教育行政システムへの転換」などの市政改革の推進等も踏まえつつ、この間の生涯学習の取り組みを振り返り、課題を抽出した上で、今後その解決に向けての取り組みや新たにチャレンジしていくことなどの方向性を次の4本の柱としてまとめています。

1. 生涯学習を通じた教育コミュニティづくり
2. 必要な人に届く生涯学習 (新規)
3. 市民力を育む生涯学習の推進
4. 「ひと」「まち」「まなび」をつなぐ多様なネットワークづくり

とりわけ、新たな柱である「2. 必要な人に届く生涯学習」では、生涯学習に関心がある、又はそれを必要としている人にどのように効果的に情報を届けていくか、に重点をおいた計画となっています。

本計画を着実に実行に移していくには、高い志のもと日頃より生涯学習事業を担っていただいている生涯学習推進員をはじめ、各種事業に積極的に携わっていただいている多くのボランティアの皆さん、各種関係団体や関連施設など本事業に関わる全ての方々との密接な連携・協力が不可欠です。また、より多くの区民の皆さんにご理解いただき、生涯学習に関わっていただくことを通して「まなびあい ふれあい つながっていく淀川区」の実現をめざしてまいりますので、皆さま方のご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、計画期間は本計画の上位計画である第3次「生涯学習大阪計画」(2017～2020)に合わせ、2020年度までとしておりますが、昨今の社会状況の急激な変化等に鑑み、期間中であっても必要に応じて見直しを図ってまいります予定です。

〔淀川区の生涯学習計画の沿革〕

- | | | |
|----------|-----------|----------------------------------|
| 2001年3月 | 第1次 | 淀川区生涯学習推進計画(2001～2005)策定 |
| | | キャッチフレーズ「まなびあい ふれあい 淀川区」 |
| 2006年6月 | 第2次 | 淀川区生涯学習推進計画(2006～2016、1年間延長) |
| | | キャッチフレーズ「学びあい ふれあい はぐくむ 淀川区」 |
| | (2017年3月) | 第3次 生涯学習大阪計画(2017～2020)〔大阪市〕 |
| 2018年12月 | 第3次 | 淀川区生涯学習推進計画(2018～2020) |
| | | キャッチフレーズ「まなびあい ふれあい つながっていく 淀川区」 |

第1部 これまでの取り組み成果と課題

1. 生涯学習を通じた教育コミュニティづくり

地域ぐるみで子どもを育てていく「教育コミュニティ」(※1)づくりの推進

【これまでの取り組み成果】

- ・淀川区は、学校、家庭、地域が一体となった「教育コミュニティ」づくりを推進するため、生涯学習ルーム事業(※2)、はぐくみネット事業(※3)、学校体育施設開放事業(※4)を中心に、各種生涯学習事業に重点的に取り組んできました。この間、生涯学習ルームでは子どもを対象とした各種講座など教育コミュニティづくりに資する講座の割合が9割を超えるまでになっています。(資料1)
- ・また、小学生の読書活動を支援するため、2013年度から3年をかけ、はぐくみネット事業を拡充して各小学校に「はぐくみ文庫」を整備し、図書の充実を図りました。(資料2)
- ・さらに、2015年10月から小中学校に新たに配置された「学校図書館補助員」(※5)と、地域のボランティアの方々の協力によって、開館回数の大幅増加や活発な読み聞かせ活動など、魅力ある学校図書館づくりが進められています。(資料3)

きれいにレイアウトされた
学校図書館で本を読む子どもたち
(塚本小学校)



- ・読み聞かせなど日頃から活動されている多くのボランティアの方々が主体となり、手づくりのイベントとして2010年度から開催している絵本展「ものがたりのちから」は毎年多くの来場者で賑わうとともに、絵本の魅力を子どもから大人まで幅広い層に伝えてきています。今では淀川区の特色あるイベントの一つとして浸透しつつあります。



絵本展「ものがたりのちから」 (淀川区役所にて)

左から「おはなしの部屋」「おすすめ絵本やボランティアグループの紹介」

- ・学校体育施設開放事業では、従来の利用団体に限らず、新たに参入を希望する活動団体にも公平に利用いただけるよう、2016年度に制度の見直しを図りました。具体的には、各校区の運営委員会に学期毎に利用調整会議の開催を義務付けるとともに、会議の開催状況や連絡先を区のホームページに掲載するなど、運用の透明化に努めてきました。（資料4）
- ・これらの取組によって、淀川区では子どもをはじめとする若い世代から高齢者まで幅広い層の区民が生涯学習に参加しやすい環境が整いつつあります。

【課 題】

- ・これまで生涯学習に関わりの薄かった若い層が積極的に参加したくなるような魅力的な講座となるよう内容等の充実を図っていく必要があります。
また、生涯学習に関心のある方のニーズと既存講座との間にある内容や時間、開催場所等のミスマッチについてもその解消に向けて取り組む必要があります。（資料5 参考）
- ・教育コミュニティに関わりの深いPTAや地域の方を中心に、区民の方々が日常の中で自然に生涯学習に触れられる機会の創出とともに、その楽しさも同時に感じてもらえるような工夫が必要です。そうすることで、新たに生涯学習に関わる層の拡大にもつながっていくことが期待できます。

[データ等]

資料1：生涯学習ルーム事業において、子ども向け講座や大人が学習した成果を教育コミュニティづくりに活かす講座等の全講座に占める割合の推移

年 度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
該当講座の割合	83.7%	90.7%	89.4%	91.9%

資料2：はぐくみ文庫の年度別整備推移（2013～2015年度にかけ、全校整備済）

年 度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
整備校数	6 校	6 校	5 校
購入冊数（※）	3,582 冊	1,882 冊（※）	3,596 冊

（※）全集等は全集で1冊とカウントしている（このため実際の冊数とは異なる）

資料 3：学校図書館の開館回数（※）（1 週あたりの平均回数）の推移

年 度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
小学校	6.36 回	7.53 回	7.96 回	8.11 回
中学校	7.17 回	7.17 回	7.5 回	7.17 回

（※）開館回数は始業前、業間休み、昼休み、放課後の開館それぞれを 1 回とカウントする。

資料 4：学校体育施設開放事業への新規利用団体が参入しやすい環境づくり

2013 年 4 月	・ 淀川区学校体育施設開放事業実施要綱の制定
2016 年 4 月	・ 淀川区学校体育施設開放事業実施要綱を大幅に改正し、 利用時間の明確化と利用を希望する団体が公平・平等に利用 できるよう仕組みを整えた ・ 要綱の改正を踏まえ、各校区の運営委員会へ利用調整会議を 学期に 1 回、年間 3 回開催するよう指導
2016 年 6 月	・ 各校区の運営委員会へ利用調整会議の日程や連絡先を 区役所ホームページに掲載

資料 5（参考）：学習をしない理由

（生涯学習に関する世論調査（内閣府 世論調査報告書 平成 30 年 7 月調査、HP より）

（更問3（問1で「学習をしたことがない」と答えた方（707人）に）学習したことがない理由はなんですか。この中からいくつでもあげてください。 （複数回答） （ニーズと現状とのミスマッチに関するものに、淀川区で二重線を引いています。）	
・ 仕事が忙しくて時間がない	33.4%
・ 特に必要がない	31.1%
・ きっかけがつかめない	15.8%
・ 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない	15.0%
・ <u>身近なところに学習する場がない</u>	<u>7.9%</u>
・ <u>時間帯が希望に合わない</u>	<u>7.8%</u>
・ 学習するための費用がかかる	4.8%
・ 学習より優先したいことがある	4.7%
・ 一緒に学習する仲間がいない	2.4%
・ <u>学習するのに必要な情報（内容・時間・ 場所・費用など）が入手できない</u>	<u>2.3%</u>
・ <u>学習したい内容の講座が開設されていない</u>	<u>1.3%</u>
・ 学習しても職場などから評価されない	0.8%
（以下省略）	

〔用語説明〕

(※1) 教育コミュニティ

地域社会の共有財産である学校を核として地域社会の中で様々な人々が継続的に子どもに関わるシステムをつくり、学校教育や地域活動に参加することで、子どもの健全な成長発達を促していこうとするもの。学校・家庭・地域社会の協働をめざすもの。

(※2) 生涯学習ルーム事業

小学校の特別教室等を活用して、文化活動や身近な講習、講座を開催するもの。

小学校を「地域」における市民の生涯学習活動の拠点として学習機会の提供と充実を図り、地域のコミュニティづくりにも寄与する。

(※3) はぐくみネット事業

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちが生きる力をはぐくむための教育コミュニティづくりを推進するもの。

(※4) 学校体育施設開放事業

小中学校の体育施設を利用してスポーツ活動の場や機会を提供するもの。

(※5) 学校図書館補助員

学校図書館の開館をはじめ、図書の整理や展示物の作成、読み聞かせの実施など、各校の状況に合わせて、担当教員と協力して業務にあたる。

2. 必要な人に届く生涯学習【新規】

生涯学習に関する情報を必要としている人（生涯学習の楽しみや必要性にまだ気づいていない人に対しても）に適切に情報を届ける仕組みづくり

【これまでの取り組み成果】

- ・生涯学習ルームの講座一覧や問合せ窓口など「生涯学習に関する情報」が、生涯学習への参加・受講を希望する人に適切に届くよう、見やすく一覧表に整理するなど情報提供に随時工夫を凝らしています。
- ・情報発信の手段として、区広報誌「よどマガ！」や各地域のはぐくみネットで発行している情報誌などへの掲載をはじめ、区ホームページや Twitter 、 Facebook などの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など ICT（情報通信技術）を活用した広報の充実に取り組んでいます。（資料 6）

淀川区の生涯学習の
ホームページ
(一部抜粋)



各小中学校、地域の公民館等の
出向行事や行事での活動も
積極的に参加して下さい。お友達と
協力し、話し合え、練習して
思い通りにできるようになり
たいですね。是非参加し
てみて下さい。お友達と協力し
て頑張ってください。

平成30年度淀川区 生涯学習ひろ～み開講一覧





※生涯学習広～み開講小売券は+

※地区別開講 ①東区 ②西淀川 ③東淀川 ④南区 ⑤北区

※申込期間 平成30年 8月15日(水)～8月24日(金)

※申込 06-4338-4415 (平日 9時～17時)※06-4338-4324(休日)

- ・講座の種類も最近では各地域の特性を生かしたバラエティ豊かなものが増えるなど、「多様な選択肢のある生涯学習」環境ができてつつあります。(資料7)

【 課 題 】

- ・ICTを活用した広報は、紙媒体に比べ情報量の制約が少ないため、一度に多くの情報を掲載できるとともに、タイムリーに発出できることなどが利点です。しかし、一方では高齢者等を中心に、従来の紙媒体からの情報入手を主な手段としている方も多いという現状があります。

このため、生涯学習へ参加を希望するすべての方に確実に情報が届くよう、より効果的な広報手段等について再考していく必要があります。

- ・現在、生涯学習に関心や関わりを持たない方に対しても、新たに関心をもつていただく「きっかけ」となるような魅力的なイベントを生み出していくとともに、そういった情報がしっかりと届き、かつ、その魅力が正確に伝わるよう、情報発信のタイミングや情報量、媒体、手段等についてこれまで以上の工夫が

必要です。

- ・そのためにも、区の内外を問わず、様々な生涯学習関連機関等との連携強化を図りつつ、新たな取り組みにチャレンジしていくことも必要です。

〔データ等〕

資料 6：各種広報の状況

開 始 年 度	2011 年度～	2012 年度～	2014 年度～
媒 体	淀川区 Twitter	淀川区 Facebook	よどマガ！（※）

（※）区広報誌は従来からあるが、「よどマガ！」として内容がさらに充実

- ・ Twitter のフォロワー数：3,685 人（2018 年 10 月現在）
- ・ Facebook のフォロワー数：1,352 人（2018 年 10 月現在）
- ・ よどマガ！の発行数：123,000 部（2018 年 10 月現在）

ホームページアクセス数（2017 年度）	アクセス数
生涯学習ルーム事業	1,098 件
小学校区教育協議会 ～はぐくみネット～事業	137 件
学校体育施設開放事業	992 件

資料 7：様々な生涯学習の講座（2017 年度）

分 野	特徴的な講座（抜粋）
ことば コミュニケーション	手話 英語を楽しもう、英会話教室等 識字・日本語交流教室
教育・福祉 歴史・文化 自然・環境	保育ボランティア講座 春休み 子ども食堂 読み聞かせ 室町文化（茶道・華道・盆踊り）
音楽 芸能	小学生手作り楽器講座 コーラス ゴスペル

分 野	特徴的な講座（抜粋）
舞踊 ダンス	よさこい 盆踊り 社交ダンス
健康づくり スポーツ	百歳体操、健康体操 認知症予防講座 笑いヨガ
手芸 美術 工芸	墨を楽しむ～書と水墨画入門～ 切り絵 絵手紙 生け花
生活技術	親子クッキング 着付け教室（外国人向けもあり）
その他	パソコン教室

3. 市民力（※6）を育む生涯学習の推進

担い手自らが課題を自分たちで解決する力を発揮できる仕組みづくり

【これまでの取り組み成果】

- ・淀川区の生涯学習事業は、高い志をもって活動していただいている生涯学習推進員（※7）やボランティアなど多くの方々に支えられ今日に至っています。（資料8）
- ・区役所ではこれに応えるため、情報交換会の開催や生涯学習推進員連絡会の支援、教育委員会が開催する生涯学習推進員養成講座への派遣など、生涯学習の担い手の育成に力を入れています。（資料9）

防災学習プログラム
OSAKA 防災タイムアタック！
（2017年度・区役所での
情報交換会で活用）



- ・また、運営を担っている方々の事務負担を軽減するため、区役所に提出いただく各種書類の簡素化や実務等の相談にも丁寧な対応に努めてきたところです。（資料10）

【課題】

- ・これまでに区役所にいただいた「まだまだ慢性的に担い手が不足している」との声や、事業が安定的に継続実施されていくように、さらに、今後益々多様化するニーズに的確に応えていくためにも、新たな担い手の確保やその育成のための施策の拡充が必要です。

〔データ等〕

資料8：淀川区内生涯学習推進員数の推移

年 度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
生涯学習推進員数	49 名	49 名	55 名	54 名	52 名

資料 9：情報交換会等の実施状況

年 度		2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
情報 交換会	生涯学習ルーム		○	○	○	○
	はぐくみネット	○（2回）	○	○	○	○（2回）
	学校体育施設開放事業		○	○	○	
生涯学習推進員連絡会		11 回 総会 1 回	10 回 総会 1 回	13 回 総会 1 回、 臨時総会 1 回	11 回 総会 1 回	11 回 総会 1 回
生涯学習推進員養成講座への派遣人数		18 人	23 人	22 人	13 人	22 人

資料 10：事務負担軽減の具体例

事 業 名	負 担 軽 減 例（一 部 抜 粋）
生涯学習ルーム事業	・提出書類の押印を必要最小限に整理し、毎月提出する月別実施報告書等の押印の手間を減らした。 ・提出書類を精査し、地域連携支援事業と自主運営の学習活動で分かれていた事業実施計画書を 1 枚にまとめる等、年間で数百枚に及ぶ計画書の整理を行った。
はぐくみネット事業	・提出書類の押印を必要最小限に整理し、年間数十枚に及ぶ講演会等実施報告書の押印の手間を減らした。 ・提出書類を精査し、年度当初に提出する経費計画書を事業計画書と統合し、1 つの書類にまとめた。
学校体育施設開放事業	・報告項目の見直しを行い、年度当初に提出する年間の実施計画書を簡素化した（区への報告が必須ではない、経費計画や保有施設欄を削除し、チェックボックスで対応できるものは記載欄をなくす等）。

〔用語説明〕

（※ 6）市民力

地域での困りごとなどを、周りの人たちと協力しながら、自分たちの力で解決していける力。また、新しいことにチャレンジする力のこと。

（※ 7）生涯学習推進員

地域での生涯学習を推進するため、市民の学習活動を側面から援助するコーディネーターとしての役割を果たす市民ボランティア。

4. 「ひと」「まち」「まなび」をつなぐ多様なネットワークづくり

「まなび」を通じて「ひととのつながり」「まちの魅力」を発見し、それらをつなげることで、生涯学習社会をつくりあげていきます

【これまでの取り組み成果】

- ・淀川河川敷の自然や各種の生涯学習関連施設、各地域や団体独自の取組など、淀川区は生涯学習にとって有形・無形の多くの豊かな資源に恵まれています。

（資料 11）

- ・「まち歩き」や「淀川区生涯学習フェスティバル」など各種イベントを通じて、淀川区の魅力の発掘や 再発見につなげてきました。（資料 12）

【課 題】

- ・生涯学習という「まなび」を通じて得られた「ひととのつながり」や「まちの魅力」といった区民の財産を、どのように社会全体に還元・循環させていくかが今後の課題です。
- ・また、その実現後も生涯学習を継続的に発展・充実させていく仕組みが必要です。

〔データ等〕

資料 11：生涯学習関連施設数（2018 年度現在）

- ・淀川区民センター
 - ・淀川区老人福祉センター
 - ・淀川区子ども・子育てプラザ
 - ・淀川図書館
 - ・淀川スポーツセンター
 - ・淀川区在宅サービスセンター やすらぎ
 - ・淀川屋内プール
- 計 7 施設

資料 12：各種イベント等

- ・淀川区民まつり
- ・よどがわ河川敷フェスティバル
- ・絵本展「ものがたりのちから」
- ・淀川区生涯学習フェスティバル
- ・「淀川の歴史」フィールドワーク（2013 年度）
- ・「わたしのまち淀川区 小学生のための淀川区ガイドブック」発行（2014 年度）

第2部 これからの取り組み

1. 生涯学習を通じた教育コミュニティづくり

【これからの取り組み】

- ・生涯学習ルームの講座の継続的な見直しや拡実を図るとともに、小中学校の図書館や特別教室、体育施設等の活用を通じて、学校を拠点とした子どもをはじめとする若い世代から高齢者まで幅広い層を対象に、学習機会やものづくり・スポーツ体験の充実を図っていきます。【拡充】
- ・ニーズ調査等により、他では経験できない独自のメニューの提供や実施時間・場所を工夫するなど、ミスマッチの解消に向けた多くの選択肢のある生涯学習ルーム講座の充実を図ります【拡充】
- ・学校体育施設開放事業への新たな参入が妨げられないよう、公正透明な運営を引き続き確保していきます。【継続】
- ・PTAや地域に身近な団体との連携に取り組むなど、新たなチャレンジを通して生涯学習への参加層の拡大を図り、教育コミュニティづくりの充実につなげていきます。【新規】



生涯学習ルーム講座（写真左から、ゴスペル、笑いヨガ、子ども向けものづくり講座）

【2020年度に向けた目標】

- ・教育コミュニティづくりに関わった団体数を2017年度に対して3団体増やす（2017年度：91団体）
- ・教育コミュニティづくりを意識した生涯学習ルーム講座の全講座に占める割合90%以上を維持する（2017年度：91.9%）

2. 必要な人に届く生涯学習 【新規】

【これからの取り組み】

- ・区役所が生涯学習の支援拠点として、各種情報を集約した「生涯学習データベース」の役割を果たします。そのために、地域や生涯学習関連施設などと連携を図りながら各種情報を共有・集約するなど、より効率的・効果的な情報発信につなげていきます。【拡充】
- ・ニーズの多い紙媒体の広報の有効活用を図るため、区役所が地域や生涯学習関連施設の生涯学習関係の情報を集約し、情報誌として発行します。
そのためにも、生涯学習関連施設連絡会（※8）と、連携を深めつつ取り組みをすすめていきます。【拡充】



- ・ニーズ調査結果などを踏まえて、生涯学習に興味のある方向けのニーズに沿う体験会や視察など、気軽に参加できるイベントを実施するとともに、その取組を広く情報発信します。【拡充】
- ・ポスター掲示やちらし配布についても、ターゲット層を明確にするなど、戦略的な掲示・配布を行っていきます。【拡充】

【2020年度に向けた目標】

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・区民アンケートで、生涯学習に関する必要な情報が得られる又は届いていると感じる区民の割合を 70%以上とする |
|--|

〔用語説明〕

（※8）生涯学習関連施設連絡会

区内の生涯学習関連施設間の連絡調整を緊密にし、生涯学習の推進や区民の学習活動の振興を図ることを目的に、生涯学習に関する情報の交換や生涯学習事業の相互協力などを行うもの。

3. 市民力を育む生涯学習の推進

【これからの取り組み】

- ・集客力のあるイベント（防災・読書等）を活用して、生涯学習の魅力を広く紹介するなど、誰でも自然に生涯学習に触れられる機会を創出します。【拡充】

読書ボランティア講座では、写真にある本の修理など様々な経験ができます。
(淀川図書館にて)



- ・生涯学習ルームの講座など様々な機会を捉えて、新たな担い手の発掘に努めます。
また、すでに担い手として活動されている方に対しても、生涯学習推進員連絡会など担い手の集まる場を活用して、情報交換やネットワークづくりなど、生涯学習のスキルアップにつながるような機会を設けます。【拡充】
- ・はぐくみネットや運営委員会（生涯学習ルーム事業・学校体育施設開放事業）との委託業務に関して、事務負担のさらなる軽減に努め、担い手の確保につなげていきます。【拡充】

【2020 年度に向けた目標】

- ・新たな担い手発掘につながる、生涯学習のイベント等の参加者を2017年度に対して5%増やす（2017年度：511人）
- ・生涯学習の担い手に対するアンケートで、生涯学習を通じて地域課題の解決につながるような取り組みができた（※）と感じる方の割合を70%以上とする
(※) 具体的な例
 - ・読み聞かせ活動により、子どもたちの情緒の発達が見られた
 - ・防災ゲームを通して、災害時に命を守る方法を知ることができた
 - ・百歳体操を通じて、高齢者が元気に生活できるようになった

4. 「ひと」「まち」「まなび」をつなぐ多様なネットワークづくり

【これからの取り組み】

- ・生涯学習に取り組んでいる既存の活動団体・個人にとどまらず、新たに参入を希望する団体・個人についても、ネットワーク化に取り組めます。【拡充】



- ・現行事業や各種イベント等も活用しながら、その場にいる人々や団体が交流し、新たな事業を創出するきっかけとなるような場へと発展させていきます。【拡充】



左 淀川区生涯学習
フェスティバル



右 淀川河川敷フェスティバルで
しじみストラップ作り

- ・産学官連携など、これまでつながりが薄かった分野間での連携にも新たにチャレンジしていきます。【新規】

【2020 年度に向けた目標】

- ・新たな連携に向けたプロジェクトを、2 件以上立ち上げる



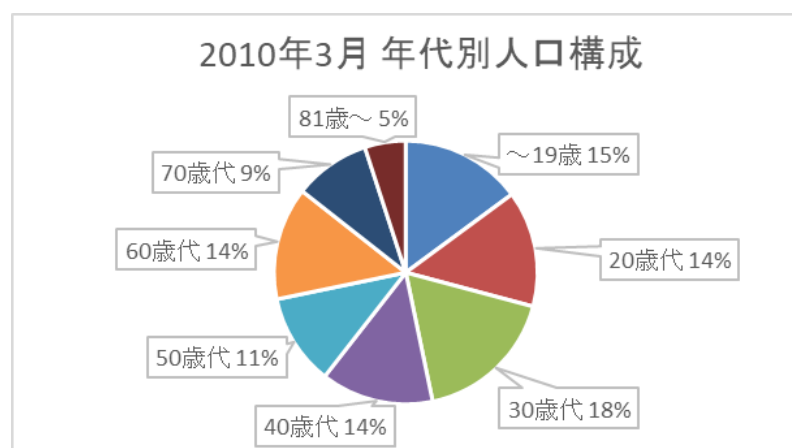
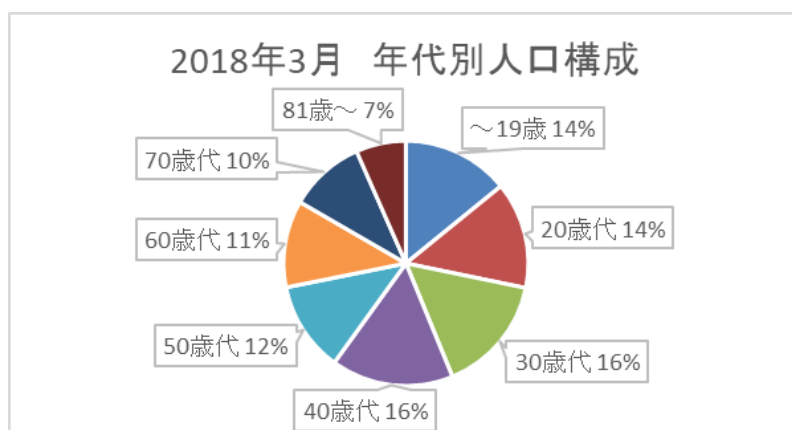
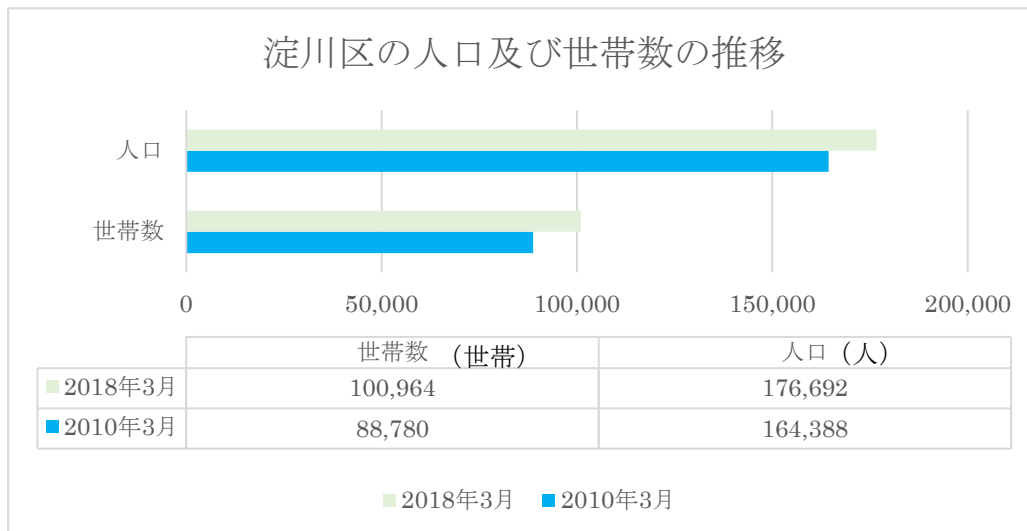
おわりに

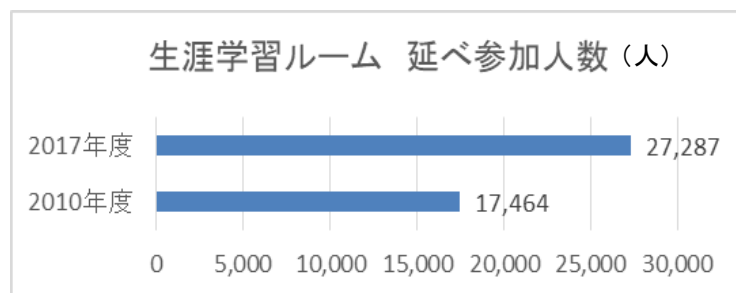
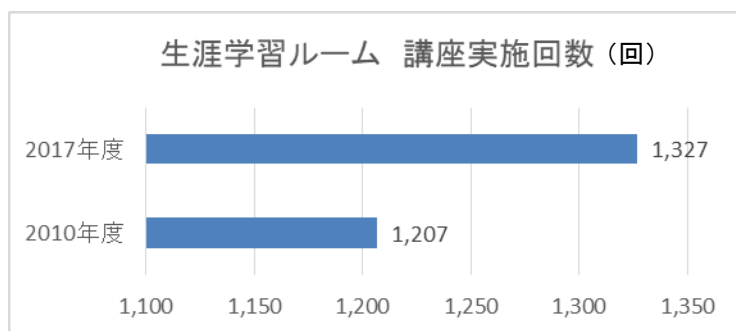
淀川区が特に力を入れてすすめている「教育コミュニティづくり」を中心に、大阪市の第3次「生涯学習大阪計画」の4つの視点を軸に、「まなびあい ふれあいつながっていく 淀川区」をめざして、取り組みをすすめてまいります。

引き続き、地域のボランティアや生涯学習関連施設等と連携・協働しながら取り組み、昨今の目まぐるしい社会情勢の変化も考慮しつつ、取り組みが順調に進捗しているか、また、有効な取り組みであるかなどを振り返りながら進めていくこととし、期間中であっても適宜見直しを図っていきます。

付属資料

■各種データ類





■生涯学習関連施設（2018 年度現在）

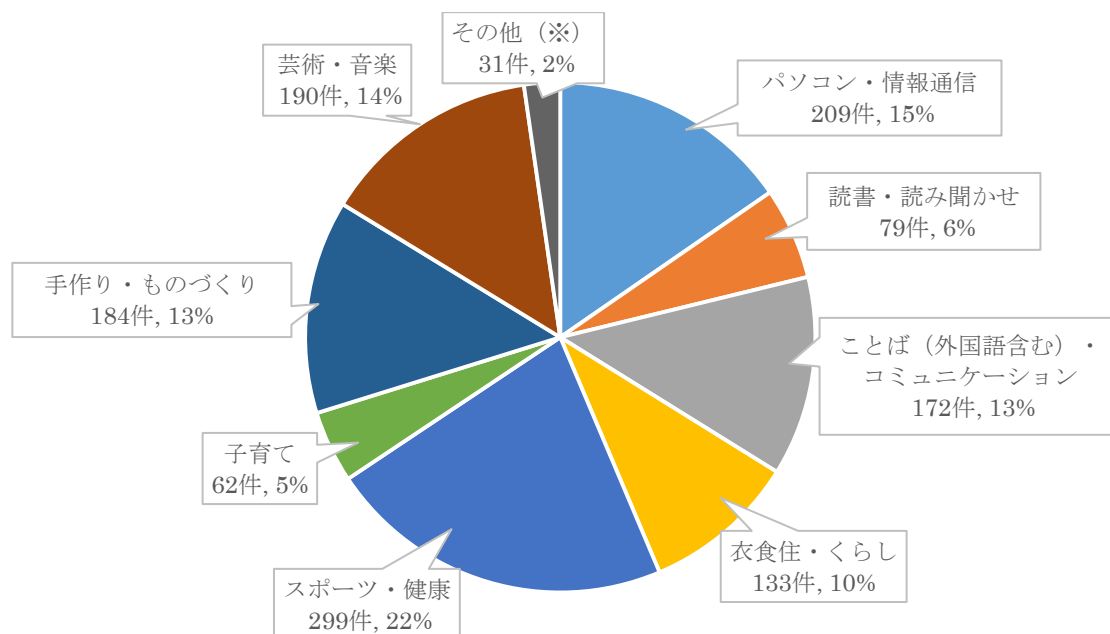
施 設 名	住 所	電 話 番 号
淀川区民センター	淀川区野中南 2-1-5	6 3 0 4-9 1 2 0
淀川区老人福祉センター	淀川区野中南 2-1-5 淀川区民センター 2 F	6 3 0 4-9 1 1 8
淀川区子ども・子育てプラザ	淀川区新高 1-11-19	6 3 9 5-6 4 2 0
淀川図書館	淀川区新北野 1-10-14	6 3 0 5-2 3 4 6
淀川スポーツセンター	淀川区西宮原 2-1-3 ソーラ新大阪 21 3階～5階	6 3 5 0-4 5 5 5
淀川区在宅サービスセンター やすらぎ	淀川区三国本町 2-14-3	6 3 9 4-2 9 0 0
淀川屋内プール	淀川区十三東 2-3-1	6 8 8 5-1 7 1 1

■2018 年度区民アンケート

無作為抽出した淀川区民 1,500 名に送付

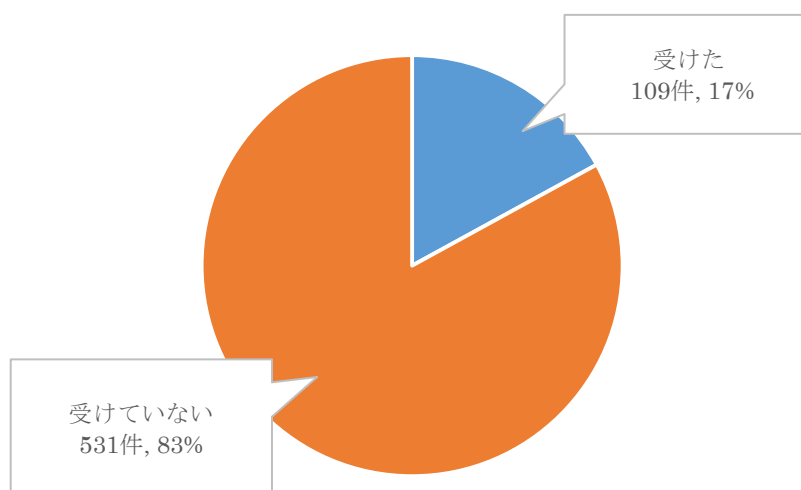
(うち回答者数：631 名、回答率：42.0%)

- あなたはどのような分野の生涯学習の講座・イベントに興味がありますか？
(複数回答可)

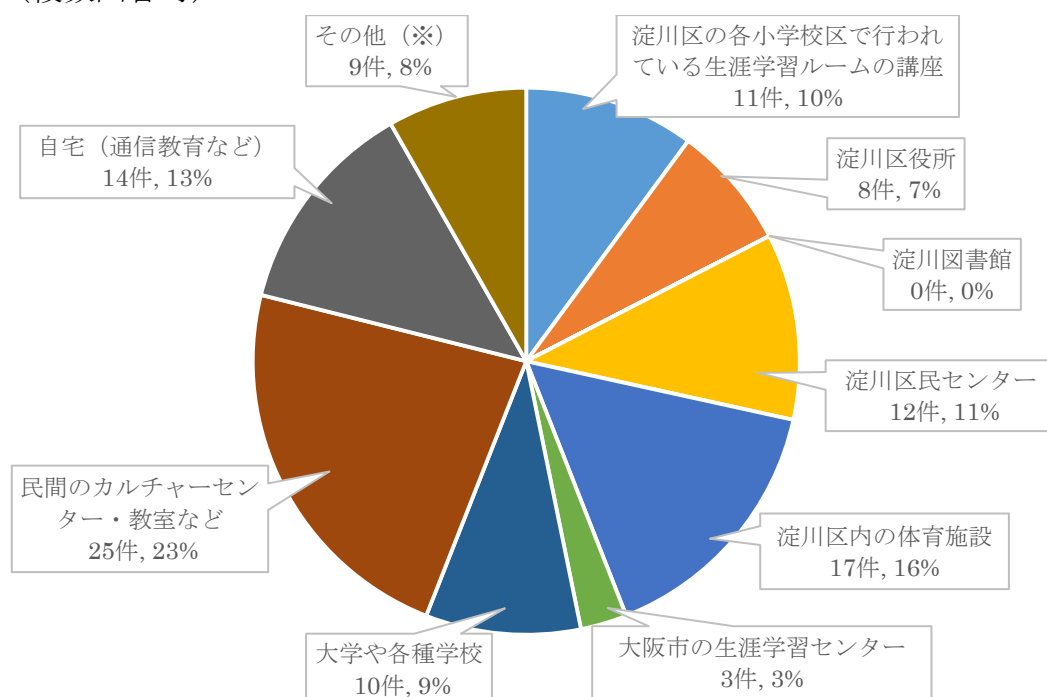


（※）その他（一部抜粋）：手話、スマートフォンの上手な利用と活用、キャンプ等のアウトドア等

- あなたはこの1年間（平成 29 年 9 月～平成 30 年 8 月）に、生涯学習に関する講座やイベントを受けましたか？

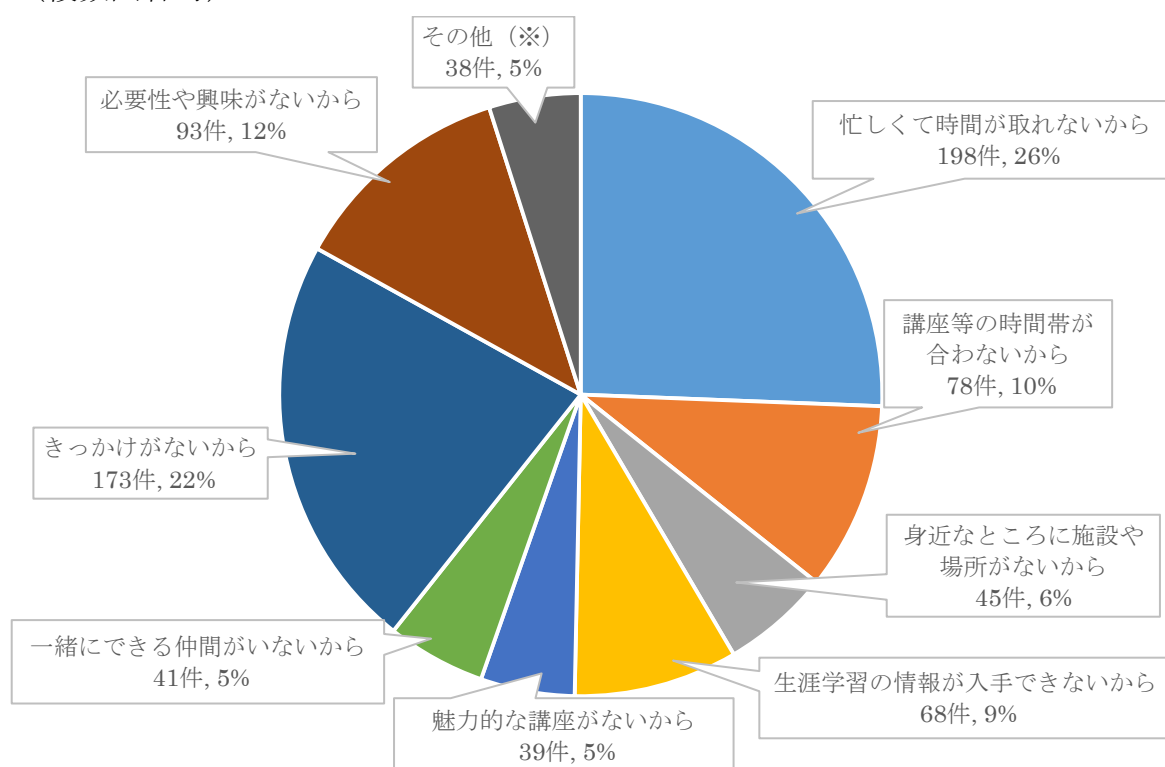


●生涯学習に関する講座やイベントを受けた方（109人）は、どちらで受けましたか？（複数回答可）



（※）その他（一部抜粋）：福祉施設、他市の施設等

●前の質問で「生涯学習に関する講座やイベントを受けていない」と回答された方にお聞きします。その理由について、当てはまるものをお選びください。（複数回答可）



（※）その他（一部抜粋）：体調を崩している、お金の余裕がない等

・生涯学習関係経過等

大阪市・淀川区の生涯学習計画 沿革

		大 阪 市	淀 川 区	国	市	区	生涯学習関連事項	生涯学習を取り巻く社会状況の変化	課 題
平成 1年	1989				○		・「学校体育施設開放事業」開始（昭和35年～）		
平成 2年	1990				○		・大阪市で「生涯学習ルーム」事業が13小学校区で始まる		
平成 3年	1991				○		・生涯学習振興法制定		
平成 4年	1992	第1次「生涯学習大阪計画」 計画期間 平成4年2月～17年12月			○		・第1回大阪生涯学習フェスティバル開催		
平成 5年	1993								
平成 6年	1994				○		・生涯学習推進員の設置（委嘱）、要綱制定		
平成 7年	1995								
平成 8年	1996								
平成 9年	1997								
平成10年	1998								
平成11年	1999	○目 標：市民の誰もが、いつでもどこでも、必要に応じて楽しく学び続けられる人間尊重の生涯学習都市・大阪の実現をめざす							
		○生涯学習とは：「基本的な人権、自由、民主主義、ノーマライゼーション等の人間尊重の考え方を基本として、一人ひとりが人生のあらゆる段階や場面において、できる限り自己実現をめざし、自己に適した手段・方法を選んで、自ら進んで行う自己教育活動であるとともに、学習者がその成果を社会に広げ、よりよい社会への変革を担っていくことができるための学習」							
平成12年	2000								
平成13年	2001		・淀川区生涯学習推進計画						
平成14年	2002		～まなびあい ふれあい 淀川区～ 計画期間 平成13～17年度		○		・市はぐくみネット事業開始、生涯学習情報提供システム運用開始		
					○		・淀川区 教育コミュニティの推進を目的に「はぐくみネット」事業開始		
平成15年	2003				○		・地域に身近な学習と交流の拠点となる「生涯学習ルーム」を区内全小学校区で開設（平成15年度）	・児童虐待 ・育児放棄 ・青少年の凶悪犯罪の低年齢化 ・いじめ ・ひきこもりなど	・学校や家庭だけでなく地域社会の中での「居場所」づくりや体験学習等の世代間交流がより重要
平成16年	2004	○生涯学習支援システム（広域、ターミナル、地域の3学習圏設定） ○生涯学習ルーム事業を地域の生涯学習支援の中核に位置付け							・社会に参画できるしくみづくりの推進
平成17年	2005				○		・学体：契約事務が「ゆとりとみどり振興局」から「区役所」へ移管。→局の補助執行から区役所への「予算配付」となり、区と各運営委員会との特名随意契約に。		
平成18年	2006	第2次「生涯学習大阪計画」 計画期間 平成18年1月～29年3月	・淀川区生涯学習推進計画 ～学びあい ふれあい はぐくむ 淀川区～ 計画期間 平成18年6月～平成28年度		○		・教育基本法の改正により生涯学習の理念が規定される。（平成18年）（学校、家庭、地域が連携・協力して教育に携わる） ・上記に伴う社会教育関連三法（社会教育法、図書館法、博物館法）改正（平成20年）		
平成19年	2007				○		・市政改革（指定管理者制度導入、区での生涯学習関連事業の推進、関連施設の改廃）		
平成20年	2008	○基本理念：「自律と協働の社会」をつくる生涯学習の推進	【基本的視点】 （1）地域で育む生涯学習社会づくり （2）人間の尊重と共生 （3）小学校区を中心とした「教育コミュニティ」づくり （4）歴史と文化を生かした「まなび」のネットワークづくり		○		・平成19年度、教育委員会所管事業のうち、 ①青少年施策 → こども青少年局、 ②博物館等施設 → ゆとりとみどり振興局に移管、 ③「生涯学習ルーム事業」「小学校区教育協議会－はぐくみネット－事業」等の地域生涯学習事業 → 各区役所に		
平成21年	2009	○目 標：「まなび」と「行動」が循環する「循環型の生涯学習社会」づくり	【重点施策】 1. 生涯学習情報提供・相談体制の充実 2. 人権教育と生涯学習 3. 「まなび」を基本としたコミュニティづくり 4. 歴史・文化資源や自然環境を活かすしくみづくりと「まなび」のネットワーク		○		・平成24年度、区長を区担当理事に。平成27年4月からは区担当教育次長に位置付け、「分権型教育行政システム」を推進 ・生涯学習関連施設に指定管理者制度が導入。 →開館日や開館時間の拡充など市民サービスの向上、生涯学習センターでは利用率が向上などの効果。		
平成22年	2010	○生涯学習とは：「市民一人ひとりが身近な問題について主体的に考え、ともに解決に当たるという、自律し連帯する力である『市民力』を獲得するための学習」という考え方を付加。	【推進体制】 1. 淀川区生涯学習推進委員会（区民） 2. 淀川区生涯学習推進員連絡会（区民） 3. 生涯学習推進本部（区） 4. 生涯学習関連施設連絡会（区）		○		・平成24年5月「大阪市教育行政基本条例」：生涯学習は、「教育委員会は市長と相互に連携・協力を行い、家庭の教育力の向上を支援するため必要な施策を講じることや、青少年及び成人に対する教育活動の振興に努めるものとする」と明記。 ・平成24年7月「大阪市立学校活性化条例」：校園長を中心としたマネジメントの確立や、保護者や地域住民などが学校運営に参加し、その意向を反映するための学校協議会を設置。開かれた学校運営を推進することとされている。	【社会状況の変化】 ・少子高齢化の進展（平成26年：4人に1人が高齢。平成37年→3人に1人へ） ・グローバル化や情報化による価値観・ニーズの多様化（ブログやSNSなど） ・単身世帯の増加（半数が単身。地域との関わりの薄さ。高齢化、晩婚化、未婚化、離婚など） ・雇用情勢の変化（非正規雇用労働者の増加。所得格差拡大や生活不安の増大の一因） ・様々な課題を抱える世帯の増加（生活保護、離婚、就学援助など生活課題を抱える層） ・地域コミュニティの希薄化	
		○施策体系柱 ①「市民力」を育む生涯学習の推進 ②「まなび」を基本としたコミュニティづくり ③大阪の歴史・文化・自然環境を活かした「まなび」のネットワークづくり			○		・学校図書 の整備や学校図書館補助員、コーディネーター等の配置等魅力ある取り組みが進展		・公平・平等な利用・運営の定着化（学校体育施設開放事業）
平成24年	2012				○		・「生涯学習ルーム事業」「小学校区教育協議会－はぐくみネット－事業」：区へ移管（平成19年度）、実施方針策定、実施要綱制定（平成25年度）	【市民意識の変化】（10年間の変化・平成26年度世論調査） ・生涯学習活動をする人としない人の2極化 ・学習の成果の活用増。 ・生涯学習をしない人も潜在的な学習ニーズはあるものの、きっかけや理由がないのが課題 ・情報を得る手段はインターネット・携帯サイトが台頭。 ・働きざかりの幅広い年代で就職・転職・キャリアアップや資格取得などリカレント教育・職業教育のニーズ高い。 ・地域活動への参加は年代により動機に違いがある。（20代：地域活動への興味、30～40代：子どものため、60～70代：近隣とのコミュニケーションなど）	
平成25年	2013				○		・「実施基準」を設ける（平成26年度 生涯学習ルーム事業、学校体育施設開放事業）		・委託先事務負担の軽減
平成26年	2014	○広域、区域、地域（小学校区）3層の学習圏相互ネットワーク強化に向けた生涯学習ルーム事業と区役所の連携			○		・学校図書 の整備や学校図書館補助員、コーディネーター等の配置等魅力ある取り組みが進展		・抱い手不足
					○		・学校体育施設開放事業が経済戦略局から区へ事業移管。区長の補助執行に位置付け（平成25年度）		・体制のあり方等見直し 淀川区生涯学習推進会議、淀川区生涯学習推進員連絡会との関わり など
					○		・淀川区生涯学習推進員要綱制定（平成26年）		・急激な市や区の変化にによる、生涯学習推進員とのギャップ
		■「これからの生涯学習施策のあり方について」（意見具申） 大阪市社会教育委員会議（平成27年3月）			○				・補助執行の位置づけの見直しを含めた適切化（委託や補助など区により様々）
		○計画策定の必要性 「大阪市全体の第3次計画「生涯学習大阪計画」は、本意見具申を受けて来年度中に策定される予定であるが、各区においてもその内容を参酌しながら、各区の実情にあわせた新たな生涯学習計画を策定することが望まれる。」			○				
平成28年	2016								
平成29年	2017	第3次「生涯学習大阪計画～ひと・まち・まなびをつなぐ生涯学習～」 （2017～2020）（平成29年3月策定）			○		・ 大阪市教育振興基本計画 ※（2017～2020）平成29年3月 改訂 2つの最重要目標と重点的に取り組む8つの施策		
平成30年	2018	○生涯学習とは： 人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの変化など、さまざまな変化が見られる社会状況の中で、市民が主体的にかつ継続して生涯学習活動をつづけていくために、「市民同士が交流を図り協働する中で、連携による新たな学習や価値を創造していく取組」を付加。	・淀川区生涯学習推進計画（策定予定） ～まなびあい ふれあい つながっていく 淀川区～ （2018～2020）				【最重点目標】 ①子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現 ②心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上		
平成31年	2019						【重点的に取り組む8つの施策のうち】 （7）地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援 ・・・（学校図書館、地域図書館の充実等）		
							※本計画は教育施策とともに、生涯学習に関する教育施策は地域に開かれた学校づくりにとって重要なものとなることから、生涯学習に関する教育施策を対象範囲としている。 このため、第3次の「生涯学習大阪計画」〔平成29（2017）年3月策定〕と理念を共有する。		
平成32年	2020	○小学校を教育コミュニティづくりの拠点と位置づけ	○めざす姿・方向性 ①生涯学習を通じた教育コミュニティづくり ②必要な人に届く生涯学習 ③市民力を育む生涯学習の推進 ④「ひと」「まち」「まなび」をつなぐ多様なネットワークづくり						